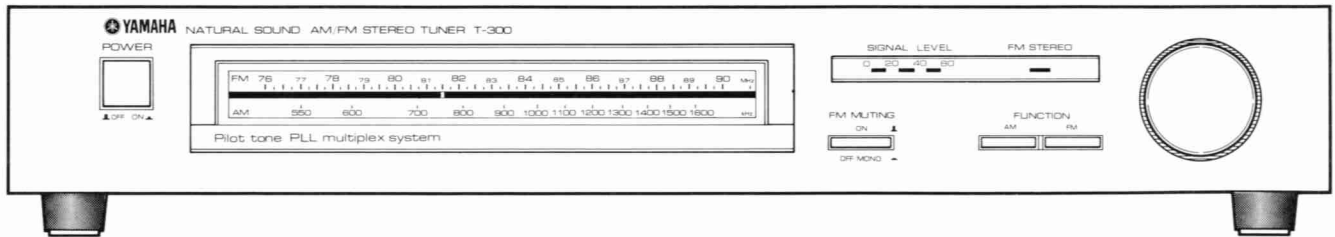




NATURAL SOUND
AM/FM STEREO TUNER

T-300

取扱説明書・保証書



■目次

特長.....	1	接続上のご注意.....	5
参考仕様.....	1	FM/AM放送の受信のしかた.....	6
各部の名称と機能.....	2	故障と思われるときには.....	7
接続図.....	3	サービスのご依頼について.....	8
ご使用になる前に次のことにご注意ください.....	4		

ご使用前に必ずお読みください。

本書には、最終ページに保証書が添付されていますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

このたびは、ヤマハ・ステレオチューナーT-300をお買い求めいただきまして
まことにありがとうございます。

T-300の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただく
ために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいた
します。

■特長

●高性能FMチューナー部

3連バリコン高感度バイポーラFET使用RF増幅段によるフロントエンド。高選択度2共振タイプセラミックフィルターを使用した差動増幅3段+クォドラチャー検波回路を有するIF回路専用ICを採用し、さらにPLL MPX回路にも専用ICを採用し高感度・低歪率・高選択度と同時に高い信頼性を得ています。

●高性能AMチューナー部

2連バリコン、非同調高利得RFカスコード増幅段、二

重平衡型差動ミクサーよりなるRF段。IF同調コイルと高選択度のセラミックフィルター使用のIF段と低歪率検波回路で構成されるAMチューナー部は、電界性の雑音に強い低インピーダンスループアンテナと共にAM放送を高感度高忠実度で安定に受信します。

●操作性のよいパネルデザイン

美しくシンプルなスタイリングと機能美を感じさせるパネルレイアウトで、ヤマハオーディオのクラフトマンシップが息づいています。

参考仕様

■FMセクション

受信周波数	76~90MHz	
実用感度 MONO(1kHz 30dB S/N)		
75Ω	0.8μV(9.3dBf)	
300Ω	1.6μV(9.3dBf)	
50dB S/N感度 MONO	3.1μ(15.1dBf)	
STEREO	42μV(37.7dBf)	
イメージ妨害比 (84MHz)	60dB	
IF妨害比 (84MHz)	100dB	
スプリアス妨害比 (84MHz)	80dB	
AM抑圧比 (IHF)	55dB	
キャプチャレシオ(IHF)	1.5dB	
実効選択度 (IHF)	85dB	
SN比 MONO	81dB	
STEREO	76dB	
全高調波歪率 MONO 1kHz	0.15%	
STEREO 1kHz	0.3%	
ステレオセパレーション 1kHz	40dB	
周波数特性	50Hz~10kHz(±0.5dB)	
サブキャリア抑圧比	35dB	
ミュートインゲレベル	10μV(25.2dBf)	

■AMセクション

受信周波数	525~1605kHz
実用感度(IHF)	10μV
選択度(1000kHz±9kHz)	24dB
SN比	50dB
イメージ妨害比	40dB
スプリアス妨害比	50dB
全高調波歪率(400Hz)	0.5%

■オーディオセクション

出力レベル/インピーダンス	
FM(100%変調、1kHz)	500mV/2.0kΩ
AM(30%変調、400Hz)	150mV/2.0kΩ

■付属機構

FMミュートインゲ、オートステレオモノラル連動スイッチ、FMステレオインジケーター、シグナルレベルインジケーター

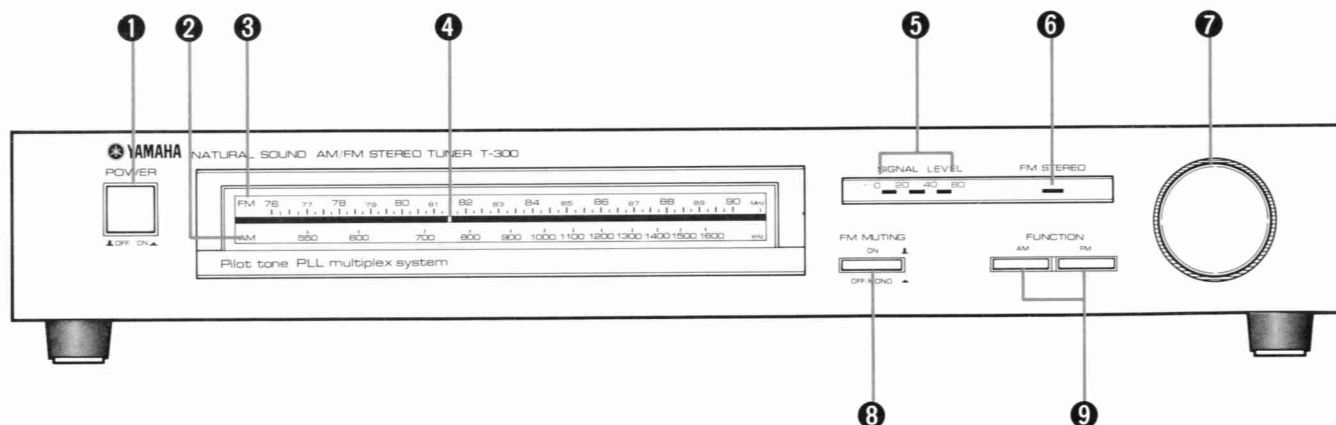
■総合

定格電源電圧	AC 100V
定格電源周波数	50/60Hz
定格消費電力	7W
外形寸法(W×H×D)	435×72×299mm
重量	3.2kg
付属品	

AMループアンテナ×1
FM T字型簡易アンテナ×1
出力コード×1

*仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

各部の名称と機能



①POWER (電源スイッチ)

このスイッチを押してON にすると電源が入り、もう一度押すとOFF となり、電源が切れます。

※電源スイッチをON にすると、ダイヤル指針(赤)やダイヤル照明ランプが点灯します。

②AMダイヤルスケール

AM用の周波数目盛りで、受信周波数の数字はkHz (キロヘルツ) で示されています。

③FMダイヤルスケール

FM用の周波数目盛りで、受信周波数の数字はMHz (メガヘルツ) で示されています。

④ダイヤル指針

⑦のチューニングつまみを回して、この指針を希望する放送局の周波数に合わせます。

⑤SIGNAL LEVEL (シグナルレベルインジケータ)

F.M放送やA.M放送を選局受信する際、チューナーに入ってくる電波の強さを表示するインジケータです。このインジケータが多く点灯するようにアンテナの高さや方向を調整してください。

⑥FM STEREO (FMステレオインジケータ)

FM放送を受信の際、放送がステレオ放送の場合には自動的にこのインジケータが点灯し、モノラル放送になると消えます。

※AM放送を受信しているときには点灯しません。

⑦チューニングつまみ

放送局を選局するつまみです。⑤のSIGNAL LEVELインジケータを見ながらつまみを回して受信状態を最良にしてください。

⑧FM MUTING (ミュートスイッチ)

このスイッチをON にしますと、ミュート回路が働いて放送選局の際に発生する放送局間の“ザー”(FM)というノイズをカットします。しかし受信電波が弱い場合には、スイッチをOFF/MONO にして選局してください。

※OFF/MONO ポジションでは、FMステレオ放送を受信中でもモノラルとなります。

※AM受信の場合は、ミュート動作はしません。

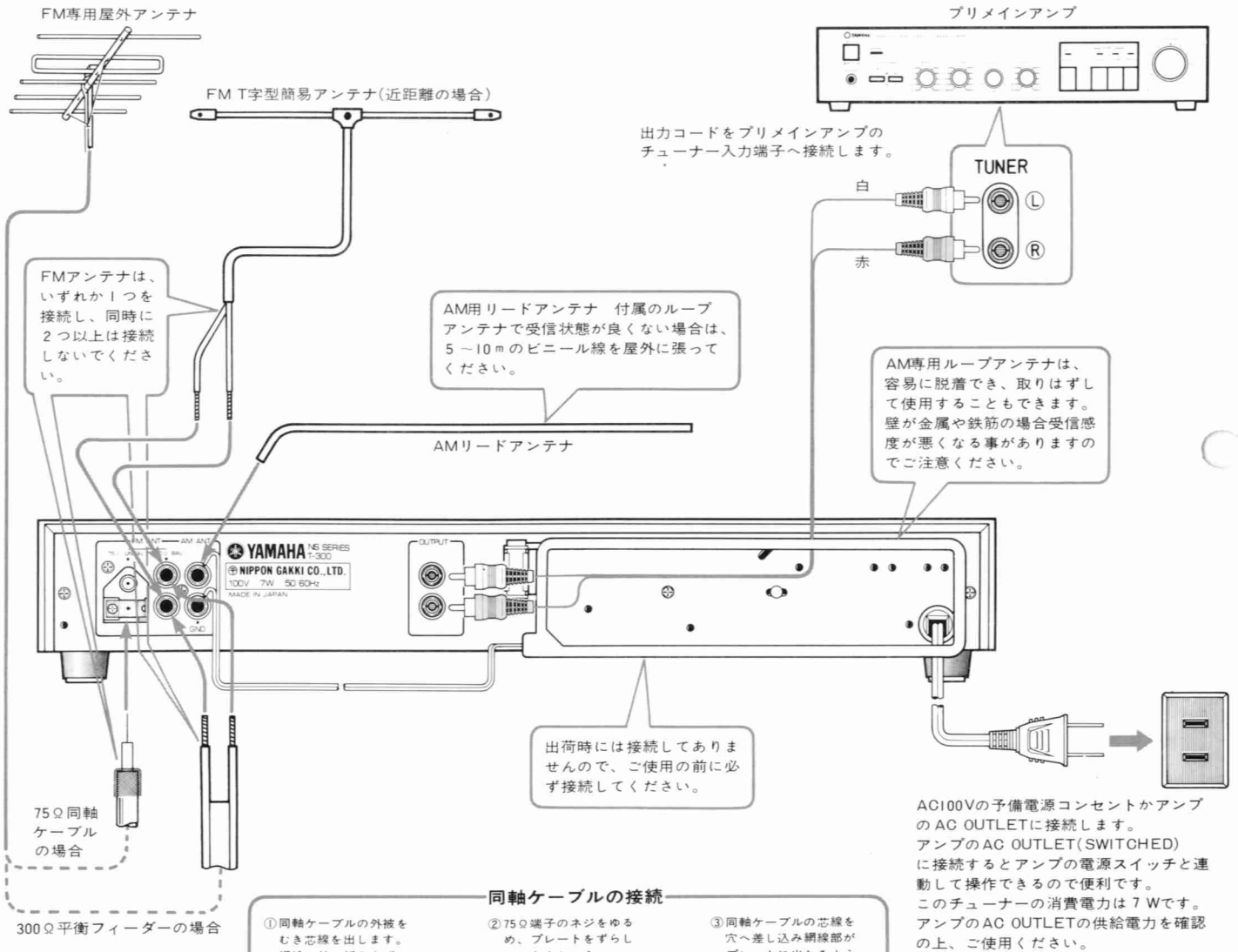
⑨FUNCTION (ファンクションスイッチ)

FM放送かAM放送を選択するボタンです。

FM放送を受信する場合には、FMボタンを押します。

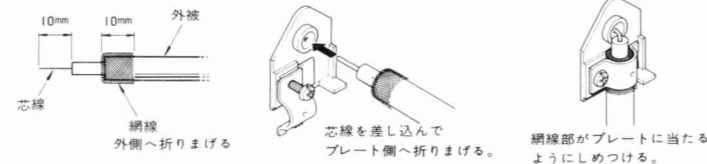
AM放送を受信する場合には、AMボタンを押します。

接続図



同軸ケーブルの接続

- ① 同軸ケーブルの外被をむき芯線を出します。網線は外へ折りまげてください。
- ② 75Ω端子のネジをゆるめ、プレートをずらしておきましょう。
- ③ 同軸ケーブルの芯線を穴へ差し込み網線部がプレートに当たるようにしめつけます。

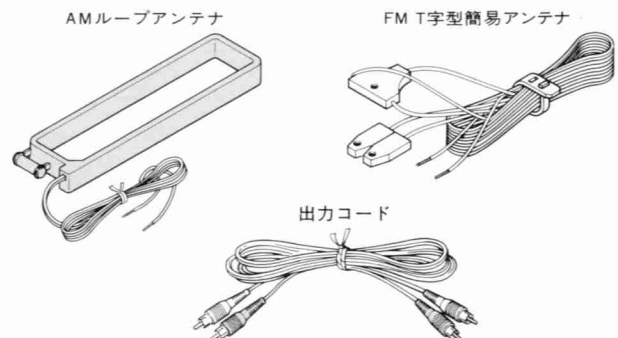


接続上のご注意

- 出力コードの接続は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認してください。
- 接続コードのプラグは、確実に差し込んでください。接続が不完全ですと音が出なくなったり、雑音の発生する原因となります。
- 接続コードを、電源コードやプリメインアンプのスピーカーコードと一緒に束ねたり、小さな直径でぐるぐる丸めたりしますと、不要なハムや雑音を拾ったりすることがありますので、ご注意ください。
- テレビや他の受信器の近くでは相互に悪影響をおよぼし良好な受信ができない場合がありますので、テレビなどからできるだけはなして設置してください。

付属品

付属品を確認してください。



ご使用になる前に次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度35℃以上)または、温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の機能を維持できない場合がありますのでご注意ください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビが生じたり故障の原因となることがあります。
- ホコリの多い場所ではスイッチ等がよごれ、接触不良や雑音の発生等の原因になり性能をそこなうこととなります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、振動の多い場所や磁気の強い場所(テレビやモーター)の近くには置かないでください。雑音の発生等の原因になります。



セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。(変色等の原因となります。)お手入れには、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。



水に濡れたら

万一雨が降ったり、花瓶などの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。(この状態で電気を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また故障の原因となりますのでご注意ください。)



ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときは、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



FMアンテナ

良質なFM放送をお楽しみいただくために、FM専用アンテナをご使用ください。



取り扱いはいねいに

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。



電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。

※本機は国内仕様です。必ずAC100V ±10%、50/60Hzの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。



落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときには、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。アンテナからのケーブルを端子からはずし、ケーブルには絶対さわらないようにしてください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがありまないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



もう一度調べてください。

故障かな?と思ったら、まず7ページの“故障と思われるときには”を見てください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

接続上のご注意 (3ページをご参照ください。)

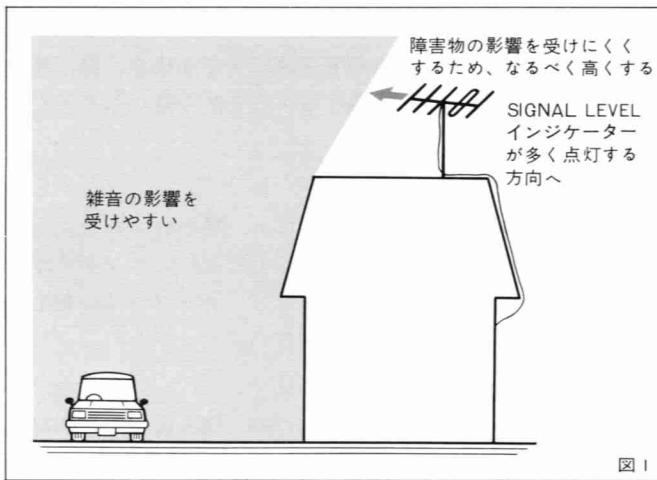
<FMアンテナ>

FM電波は、受信する地域の状況(放送局から離れた地域や、ビルや山のかげなど)によって良好な受信ができにくい場合がありますので、ご使用になる地域の電波の強さや状況に応じたアンテナを設置するようにしてください。

●FM屋外アンテナの設置

放送を良質に受信するために、FM用の屋外アンテナをご使用されることをお勧めします。

図1のように、道路から影になるような所へなるべく高く設置し、目的の放送を受信したときSIGNAL LEVELインジケーターが最も多く点灯する方向へ向けてください。



●FM屋外アンテナの接続

本機のリアパネルには、FMアンテナの接続端子として、300Ω平衡フィーダー線用と75Ω同軸ケーブル用の2種類の端子があります。

FMアンテナの接続には、300Ω平衡フィーダー線または75Ω同軸ケーブルのどちらでも使うことができますが、道路に面した所などでは、オートバイや自動車のイグニッションノイズ(ジーというノイズ)などの外来雑音の影響を受けにくい75Ω同軸ケーブル(3C-2Vや5C-2V)が有利です。また、屋外など長い距離を引きまわすにはロスの少ない5C-2Vの使用をお勧めします。

アンテナ設置上の注意

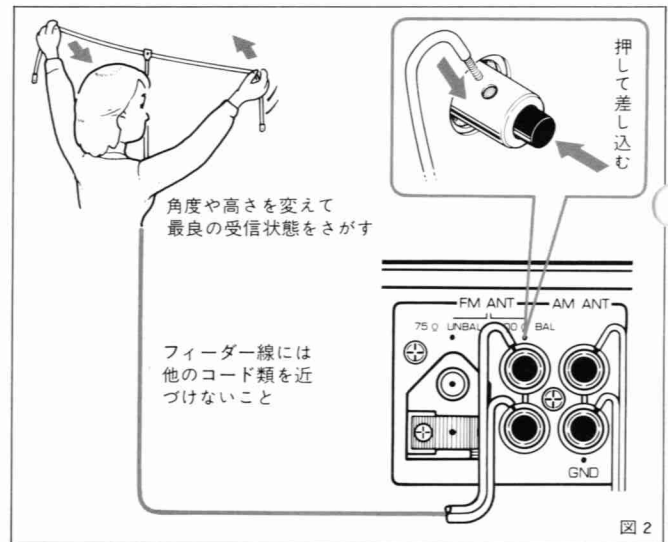
FM屋外アンテナやAMリードアンテナを設置しても、電波の弱い放送局や遠距離の放送局を受信できない場合があります。受信不能な場合にはアンテナの接続、セッティングや高さを確認してください。また、近くの放送局(強電界地域)を受信する際、多素子のアンテナやブースター(増幅器)を用いますと、電波が強すぎて受信できない場所がありますのでご注意ください。

●FM T字型簡易アンテナの接続

付属のT字型簡易アンテナは、暫定的アンテナですので、できるだけFM用屋外アンテナをご使用ください。

付属のT字型簡易アンテナは、放送局に近く電界強度の強い地域で受信する場合に使用してください。

図2のように、アンテナのフィーダー線をリアパネルの300Ω端子に接続し、水平部分の両端をピンと伸ばして、ゆっくりと180度回転させながら最も受信状態の良くなる方向を選んで壁などに固定します。



●AMリードアンテナ

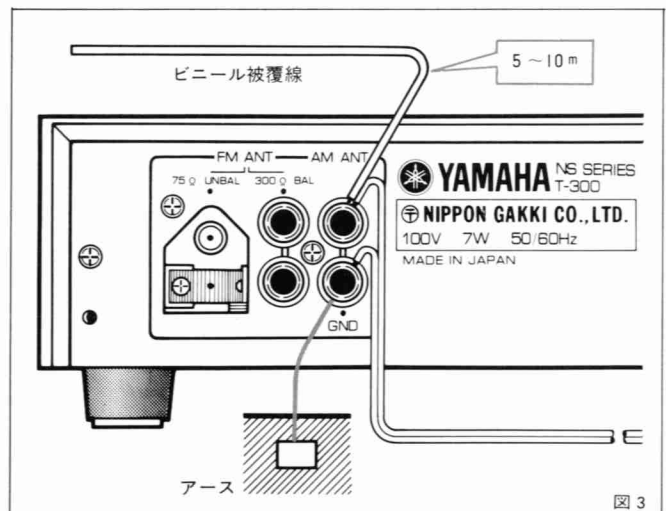
ループアンテナを調整しても受信状態が良くならないときには、AMループアンテナを接続した状態で図3のようにビニール被覆線(5~10m)を屋外に張ってください。

●アースについて

通常の実用には必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースをとることをお勧めします。

アースは市販のアース棒か銅板に導線を接続して湿気の多い地中に深く埋めてください。

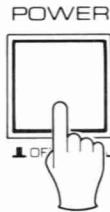
水道管やガス管にアースを取り付けることは感電や火災等の危険防止のため絶対におやめください。



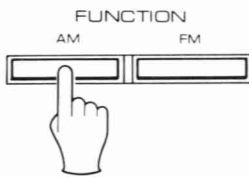
FM/AM放送の受信のしかた

■AM放送の受信

- (1)アンテナやアンプとの接続を確かめ、POWERスイッチ①をON■にします。

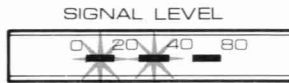
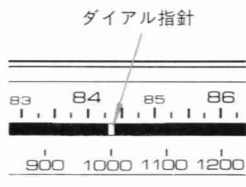


- (2)FUNCTIONスイッチ⑨のAMボタンを押します。



- (3)チューニングツマミ⑦を回して希望放送局の付近にダイヤル指針④を合わせます。SIGNAL LEVEL インジケータ⑤が多く点灯するようにしてください。

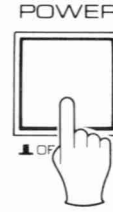
※AM用ループアンテナでは、雑音が多かったり音が小さかったりする場合には、屋外に5~10mのビニール線を張ってAM ANT端子に接続してください。この際、AMループアンテナは接続したままビニール線を取り付けてください。



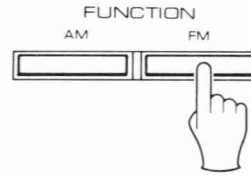
SIGNAL LEVEL インジケータが多く点灯するようにしてください。

■FM放送の受信

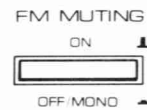
- (1)アンテナやアンプとの接続を確かめ、POWERスイッチ①をON■にします。



- (2)FUNCTIONスイッチ⑨のFMボタンを押します。



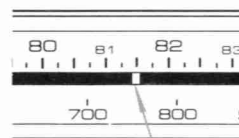
- (3)FM MUTINGスイッチ⑧は通常ON■にしておきます。



- (4)チューニングツマミ⑦を回して、希望放送局の付近にダイヤル指針④を合わせます。SIGNAL LEVEL インジケータ⑤が多く点灯するようにしてください。

- (5)放送がステレオ放送の場合には、FM STEREO インジケータ⑥が自動的に点灯し、モノラル放送になると消えます。

※放送局からある程度離れた弱電界地域でFM放送を受信するときや、希望放送局の電波が、周波数の隣接した他の放送局からの妨害により受信困難な場合には、FM MUTINGスイッチをOFF/MONO■にしますと、雑音が減り聞きやすくなりますが、ステレオ放送受信中でもモノラルとなります。



ダイヤル指針



SIGNAL LEVEL インジケータが多く点灯するようにしてください。

FM 放送がステレオ放送の場合には自動的に点灯し、モノラル放送になると消えます。

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	症 状	原 因	処 置
FM 放 送 受 信 時 の ト ラ ブ ル	`バリバリ、ガリガリ`という雑音が時々入る（電波の弱い地域ほど著しい）	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ	FM専用アンテナをできるだけ高く道路から離れた位置に建て、同軸ケーブルを使用してください
		サーモスタットつき電気器具の雑音	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
	ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起こる	アンテナの接続を確認してください
			FM専用アンテナを建ててください
			FM専用アンテナを多素子のものにしてみてください
	ステレオ放送受信時、FMステレオインジケータがチカチカ点滅し雑音も多い	アンテナ入力の不足	受信地域の電界強度に合ったアンテナを建ててください
同調が完全にとれていない		もう一度同調をとり直してください	
ステレオ・テスト放送で、左側の音が右側にもれる	クロストーク（漏話）現象で、わずかに出ている場合は正常	右側へのものが左側の音に比べ、極くわずかであれば正常で、故障ではありません	
AM 放 送 受 信 時 の ト ラ ブ ル	感度が充分にない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が確実でない	AMループアンテナを取りつけ直してください
			AMループアンテナの方向を変えてみてください
			屋外にAM用アンテナを張ってみてください
	`ジー`、`ザー`、`ガリガリ`などの連続雑音が出る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具による雑音	AM用屋外アンテナを張り、アースを完全にとると減少しますが、完全に除去するのは困難です
`ビー`、`チー`、`シーン`などの音が入る（特に夜に多い）	隣接局の電波が受信中の放送周波数と干渉を起している	隣接局の干渉はやむを得ません	
	テレビなどをそばで使用している	テレビセットから離して使用してください	

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(7ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口	
東京電音サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京ステレオサービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京電音サービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
横浜電音サービスステーション	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL (045) 212-2223
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーホールビルヤマハ新潟センター2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
大阪ステレオサービスステーション	〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06) 445-6421
大阪電音サービスステーション	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F) TEL (0878) 33-2233
名古屋電音サービスセンター	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
名古屋電音サービスステーション	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
北陸電音サービスステーション	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL (0762) 43-5341
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-14-1 TEL (0534) 56-9211
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
九州電音サービスステーション	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
北海道電音サービスステーション	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒980 仙台市大町2丁目2-10 (住友生命仙台青葉通りビル) TEL (0222) 22-6144
仙台電音サービスステーション	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
お預り品修理拠点	
東京電音サービスデポ	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10 TEL (03) 904-4986 (03) 904-4901
大阪電音サービスデポ	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービスデポ	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
九州電音サービスデポ	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
北海道電音サービスデポ	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスデポ	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
本社	
営業技術部電音サービス課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-8/パールビル内 TEL (03) 572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL (03) 572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL (045) 311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL (06) 251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL (06) 211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL (078) 321-1191
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052) 201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL (093) 531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL (011) 512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL (0222) 22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL (082) 221-4122
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL (0534) 54-4115
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL (0534) 54-4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

